

非木材グリーン協会アワード2014表彰式 非木材資源の可能性引き出す

新たな発想の4作品が受賞



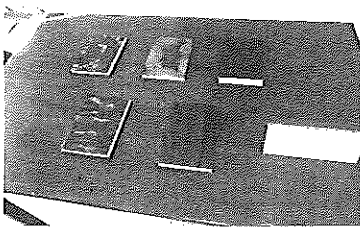
挨拶する門屋会長

非木材グリーン協会主催による『非木材グリーン協会アワード2014表彰式』が十月二十七日(月)、午前十時よりポワンダフル自由が丘一・二六(一三番ビル2F)において盛大に執り行われた。表彰式では冒頭、門屋卓会長が挨拶に立ち、協会がエコロジー社会の改善、改革の一端を担って、この非木材資源で何か貢献できないかという

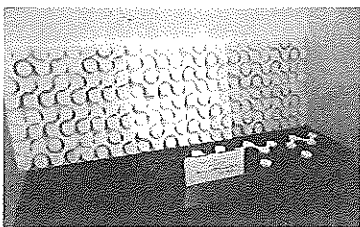
目的で発足してから、二十年が経過したことを改めて報告。新しい視点で、非木材資源を今回のアワードの創設により、PRしていく考えを述べた。



受賞者・審査委員長、協会関係者一同



GOLD賞・審査員特別賞「竹取の宝」

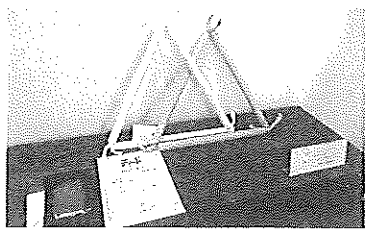


SILVER賞「浮雲—Bagasse Cloud」

第一回目のアワードとなる今回の審査結果は、既報の通り、GOLD賞と審査員特別賞に「竹取の宝」(制作者：福島祥氏、使用素材：竹紙)が受賞。またSILVER賞には「浮雲—Bagasse Cloud」(制作者：渡邊厚氏、使用素材：クレートバガス、ニューズ、サトウキビバガス、バルブ)、BRONZE賞には「おむすびライト」(制作者：田淵善坊氏、使用素材：竹紙、クレートバガス、サトウキビバガス、バルブ、オイルパーム空果房バルブ)が受賞に輝き、表彰式当日には、門屋卓同協会会長と高橋正実審査委員長より、それぞれ表彰状と賞典が授与された(BRONZE賞の田淵氏は都合により欠席)。

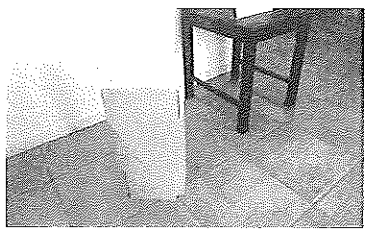
栄えあるGOLD賞と審査員特別賞のダブル受賞となった「竹取の宝」の制作者である福島祥氏は、筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻に在学中の二年生。作品の本文と表紙すべてに竹紙を使用し、表紙にはそれぞれ異なるパターンの漆加えを施しており、伝統技法を活かして独特なテクスチャに仕上げたカバー本として評価された。高橋審査委員長は講評で、GOLD賞と審査員特別賞の両方について、江戸時代末期から明治中期にかけて活躍した漆芸家・柴田是貞の技術についてふれつつ、作品から受け取れる制作者の漆表現への研究熱心さを称えた。

またSILVER賞は、主に国産材を使った建築関係の商品開発等を行っている渡邊厚氏の手による作品。建築の



BRONZE賞「おむすびライト」

また、紙だからこその可能性がある」と評した。BRONZE賞を受賞した、紙を手で柔らかく揉みほぐして、ライトを点灯した時にその透過光で色々な文様が表れる特長を持つ作品「おむすびライト」についても、「インテリア



協会賞「児童用椅子」

として楽しむことができた」として、怪我をしないように角を減らしてよりシンプルにし、子供たちで組立てや飾り付け、着色もできる協会賞の「児童用椅子」についても、紙の持つ強度面を踏まえながら、これからさらに色々なデザインが出てくることを期待したいと言葉を贈った。

世界にクレートバガス、ニューズ、サトウキビバガスバルブを使って、住宅の壁面に貼り付けるだけのシンプルな装飾品としてのデザインでありながら、パーンの高さを覚えて配列すると幾何学模様にもなることを踏まえ「素敵に組み合わせられるパーツの構成に、紙だからこその可能性がある」と評した。BRONZE賞を受賞した、紙を手で柔らかく揉みほぐして、ライトを点灯した時にその透過光で色々な文様が表れる特長を持つ作品「おむすびライト」についても、「インテリア